

確かな学力を身につけた児童の育成

～国語科を中心としたICT活用による言語活動の充実を通して～

西海市立大島東小学校

〒857-2413
長崎県西海市大島町1922-2

<http://academicl.plala.or.jp/osima/>

1. 研究の背景

平成 24・25 年度に西海市教育委員会の「ICT 教育」研究指定を受け、知識基盤社会を生き抜く子供を育成するために、言語活動の基盤である情報活用能力を育む研究を進めてきた。1 年目は電子黒板やデジタル教科書、実物投影機が学級に設置され、子供たちに確かな学力を身に付けさせることをめざし、その手段の一つとして ICT を活用し、全職員が教科の特質に応じた目標や内容についての理解を深め、各教科の特質を捉えた教材研究や授業改善を行ってきた。2 年目は児童の思考力・判断力・表現力といった確かな学力の素地となる力の育成に、ICT を効果的に活用する研究を推進してきた。このような経緯のもと、本年度はこれまでの研究を踏まえ、言語活動の充実重点をおき、この言語活動の充実を図るための ICT の効果的な活用について、国語科を中心に研究を促進することとした。

2. 研究の目的

急速に情報化が進む現代社会において、夢をもってたくましく生きていくためには、あふれる情報の中から、自分に必要な情報を選び、それを基に考え、判断する力や自分の考えや思いを他者にわかりやすく、かつ丁寧に伝えることができる力等、変化する社会に柔軟に対応していく能力を身に付ける必要がある。そこで、方策としては大きく 2 つの方向性を考えている。

- ① 「児童が ICT を活用する授業の実現」をめざし、一斉学習の中での学び合いや教え合いを重視する。
- ② 「ICT 活用」と「言語活動」との関連を深く探求する。1 点目は ICT を効果的に活用することで生み出された時間を、児童の思考・判断・表現する時間に充当する。2 点目は ICT を効果的に活用することで言語活動に直接的に活用し、活動そのものの充実を図る。

3. 研究の方法

(1) ICT の効果的な活用について

本校が考える ICT の効果的な活用とは、全ての学習活動及び学習指導に ICT を使うということではない。ねらいに迫る効果を上げるために、ICT がもつ特性を生かし、活動や指導で活用していくということである。

■ ICT の効果（学力に関わって）

特 性	効 果	
① 大きく提示 ・視線を集め指示を明確にする、 ポイントを焦点化できる等	○単調になりがちな授業に、ワンポイントで使用するだけで、 学級全員に学習内容を共有させ、興味・関心を高めることがで きる。	学ぶ意欲
② 見せながら説明 ・大きく映しポイントを説明できる、動画やイ メージを示すことができる 等	○話して聞くというだけの情報のやりとりだけでは理解でき なかつたり、イメージできなかつたりする情報も、画像や動画 を見せることで視覚化し理解を促すことができる。	知識・技能
③ 身近な教材が使用可能 ・児童自身の活動や実際に観察し たものを教材にできる等	○いくつかの画像を比較・検討させることにより新たな課題の 発見につながり、課題解決的な学習ができる。	思・判・表
④ 繰り返し、重点的に提示 ・定着が低いものを編集して繰り 返し見せることができる等	○例えばフラッシュ教材を用いれば変化のある繰り返し学習 が可能になり児童が集中して学習に取り組むとともに、知識の 定着を図ることができる。	学ぶ意欲 知識・技能
⑤ 最新情報を提示 ・インターネット等からリアルで 最新の情報を入手できる 等	○インターネット等から最新の情報を入手して提示すること により、児童の興味・関心や意欲を高めるとともに、情報を加 工してインターネットを通して発信することもできる。	学ぶ意欲 思・判・表

(2) 言語活動の充実について

- ・魅力ある単元開きを行う。
- ・単元のゴールを明確に提示して学習を進める。
- ・朝のスキルタイムを計画的に進める。
- ・学習やスキルタイムで学んだことを生かし発表の場(表現活動)を設定する。
- ・全員が研究授業を公開し、ワークショップ型の授業研究を行う。

4. 研究の内容・経過

(1) 研究の内容

- 児童アンケートの実施と分析
- 研究授業を通じた効果的な ICT 活用
 - ・先進校の実践から、デジタル教科書や実物投影機の活用を収集し研究を進める。
 - ・ワークショップ型の授業研究を取り入れ、全職員の思いや考えを吸い上げながら研究を進める。
 - ・児童が思考・判断・表現するためのツールとして ICT を活用できるような授業づくりを進める。
- 表現力の向上を図るための ICT 活用
 - ・朝のスキルタイム（音読・暗唱タイム）の計画的な指導と継続的な実践。
 - ・達成感が得られるような音読発表会（全校音読・学年音読）を位置づける。
 - ・情報教育カリキュラムにそった学習活動の充実。

(2) 研究の実際

① 1年生の実践「じどう車くらべ」

「『しごと』と『つくり』に着目し、教科書の文型を用いてはしご車の説明文を書く」という目標で授業を行った。本時では、自分の思いや考えを学習カードに記入できるようにしていく。そのために、デジタル教科書にあるはしご車の動画や社会科見学時のはしご車の動画を提示することにより、教科書の本文との整合性を確認させていく。児童は書く視点の「しごと」と「つくり」に着目しながら動画を見たり、これまでの学習シートをふり返りながらはしご車の説明文を書くことができていた。また、このような学習経験の積み重ねにより、単元のゴールである「じどう車ずかん」が完成できたことで言語活動の充実も図ることができた。

② 2年生の実践「どうぶつ園のじゅうい」

「興味をもってパンフレットを見たり、紹介を聞いたりしながら、学習の見通しをもつ」という目標で授業を行った。本時では、自分の思いや考えをもつことで、意欲を継続させながら学んでいく、魅力ある単元開きを行う。そのために、単元のゴールである「しごとパンフレット」の見本や獣医の仕事をまとめた動画を提示することにより、パンフレットを作るためには、「仕事の内容」を「仕事の順序」を追って書くことが大事であることをつかませる。児童は「読む視点」「書く視点」を意識しながら、自信を持って楽しく文章を書いていた。また、ICTや実物を介し、グループ交流を行い、より分かりやすいパンフレット作りを行っていた。今回の学習が、その後の表現活動にも生かされていた。

③ 3年生の実践「めざせ！発表名人」

「自分の考えを分かりやすく伝えるために、発表の構成を考えたり、工夫した発表の仕方を考えたりして、発表メモを作ることができる。」という目標で、授業を行った。ICTを活用して、付箋を使った発表メモの作成の仕方を示し、例示した発表メモについて話し合わせたりしたことで、本時のねらいである「筋道を立てること」や「メモを構成する」とはどういうことかを、理解させることができた。また、ICTを使って、できあがった構成メモを提示して、友達と交流させたことは、友達の考えを参考にしたり、友達と認め合ったりすることになり、中学年のめざす児童の姿「自分の考えに自信を持って表現する」の達成につながった。



④ つばめ学級の実践「絵本を書こう」

「絵本を書くために、ひらがなやカタカナや漢字を読んだり、書いたりすることができる」ことを目標に授業を行った。本時で、文字を読んだり、書いたりすることを繰り返し行い、読み・書きの力を身に付けさせていく。そのために、ICTを使って、児童が楽しみながら個別に学習できるようにした。児童は、集中してパソコンに出てくる文字を読んだり、なぞ



ったりしていた。その後の本を書く作業でも、お手本をしっかりと見て文字を書くことができていた。ICTを使うことで集中力が持続し、読み・書きする力も身に付けることができた。

⑤ 5年1組の実践「大造じいさんとガン」

「作品を自分なりにとらえ、自分の考えが聞き手に伝わるように朗読する」という目標で授業を行った。本時では、意図や目的に応じ、読む「速さ」を変えるとというスキルを身に付けさせる。そのために、事前に録画しておいた朗読と、練習後に撮影した朗読とをタブレットを活用して比較検討させ、読みの変化を実感させていく。児童は、練習を重ねるたびに、読みの技能を高め、読む「速さ」を変えると、場面の様子や心情が伝わりやすくなるということを感じることができていた。また、タブレットを介して、グループでの話し合いも活発に行われ、言語活動の充実も図れた。



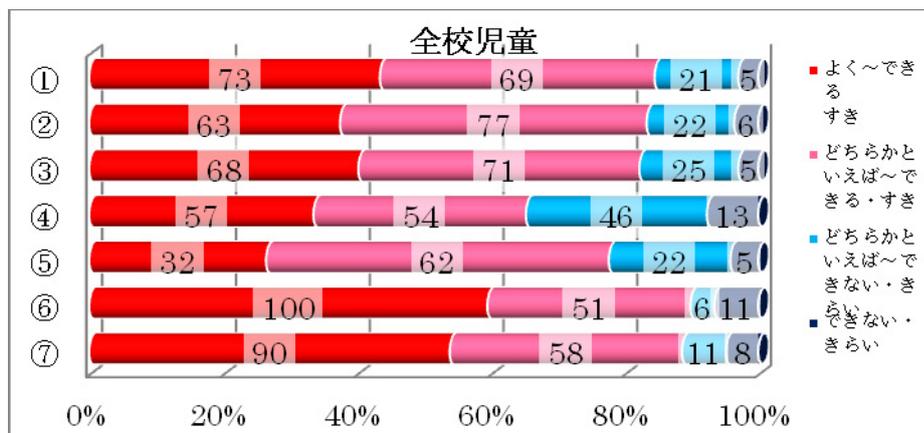
⑥ 6年1組の実践「冬休みの感動を伝えよう」

「表現の効果を考えたり、工夫したりして、生き生きとした文章を書く」という目標で授業を行った。本時では、意図や目的に応じ、「擬人法や比喩の活用」「五感を働かせて書く」「書き出しの工夫」(スキル)等ができるようにしていく。そのために、寸劇やICT、実物を掴ませたいスキルに合わせ効果的に活用していった。児童は、文章表現に関する技能を高め、自信を持って楽しく文章を書いていた。また、ICTや実物を介し、活発な意見交換もなされていた。今回のスキルが、その後の表現活動にも生かされていたことは嬉しいことだった。



5. 研究の成果

(1) 児童アンケート結果(平成26年10月実施) →今年度から新たな研究副主題を掲げ取り組んだため、1回目の子供へのアンケートが遅く、2回目のアンケートについては現在、分析中である。



アンケートの分析

1. アンケート項目

- ①ICTを使った国語の授業は好きですか。
- ②ICTを使った国語の授業は使わない授業よりも、わかりやすくなると思いますか。
- ③ICTを使うことができますか。
- ④自分の考えを話すことができますか。
- ⑤友達の発表を自分の考えと比べながら聞くことができますか。
- ⑥文章の内容を理解しながら、読むことができますか。
- ⑦自分の考えを書くことができますか。

2. アンケートの結果

③と④の項目については、「よくできる」「できる」と答えた児童の割合が他項目よりも低かった。その主な理由をあげてみる。

- ▼ほとんど使ったことがないから。
- ▼間違っていると恥ずかしいから発表しづらい。
- ▼発表するとき緊張するから。
- ▼自信がないから。

一方で①や②の項目について「よくできる」「できる」と答えた児童の主な理由をあげてみる。

○言葉で説明することが難しい時、ノートやワークシートを見せながらだと発表できるから。

○自分の考えを見せることができるから。

以上のことから、ICTを活用することによる利点を整理する。

◎言葉でうまく説明できないときはICTを使えばいい。

◎自分の考えを見せることができる。

◎大きく映し出すことができる。(見やすい)

◎筆順学習では書き順のスピードが選べる。

◎デジタル教科書は線を引いたり、消したりするのが簡単。

児童の意識が高くない項目においても、ICTの効果的な活用により、意欲的な学習態度で、集中力を持続させながら、自信を持って自力解決や協働学習ができるということが言える。

(2) 研究の成果

【教師】

- ・ICTの活用場面を考えることで、教材研究が深まり、授業改善につながった。
- ・チームで指導案作成や授業研究を行うことで、効果的なICT活用についての実践力が高まった。
- ・ICTの活用が直接的に言語活動に結びつく場面と、間接的に働きかける場面があることの実証ができた。

【児童】

- ・単元のゴールを明確に提示することとふり返しシートを活用することで、学び方が児童に浸透し、目的意識をもった学習を行うことができた。
- ・デジタル教科書や実物投影機を活用することで、児童の考えの可視化につながった。

6. 今後の課題・展望

(1) 今後の課題

- ・考えの共有や考えの可視化を補助する効果的なICT活用。
- ・協働学習において、十分な言語活動の時間を生み出す効果的なICT活用。



言語活動の充実を図り、「思考力・判断力・表現力」のさらなる向上をめざす。

(2) 今後の展望

これまでの研究で「自分の考えをもつ、発表する、伝える」ことはできるようになってきた。今後は「互いに意見や考えを伝え合い、他者の意見を取り入れながら自己の学びを深めていく児童の育成」をめざして、ICT を効果的に活用する授業改善を推進していく。

7. おわりに

思考力・判断力・表現力等の能力の向上には言語活動の充実が重要であり、そのために言語活動の育成の基盤となる国語科を中心に取り組むことにした。事例が少ない中、全職員が研究授業に臨んだ。タブレットを使い、客観的に自分の朗読を分析し、読みを深め、表現力を高めていく活用。友達の考えを瞬時にモニターに投影し、話合いの材料にし、思考力を高めていく活用。ICT の活用により生み出された時間を、言語活動に充当していく。国語科において ICT を活用して、言語活動を充実する方法を見出すことは、全ての教育活動での言語活動の充実につながるものだと確信している。教育の情報化、ICT 教育は、21世紀にふさわしい学びと学校の創造に取り組んでいくことを可能とするものであると考えている。まだまだ道半ばだが、全職員のチームワークで充実した研究を推進していきたいと思う。

また、地域のご理解とご協力を得て、今年度末にタブレット等の機器の寄贈が決定した。環境整備が進む中、確かな学力をつけるための研究をますます推進し、市内はもとより、県内各地に情報活用能力育成のための授業づくりが提案、還元できるように努める。